

## 論壇

# 公民館のこれからと 我々の社会の未来

### 公民館の使命

「が」と「か」では大違い、という与太話があります。私がNPOの活動を説明するときによく使う話で、「俺がやらなくて誰がやる」というのが市民精神、「俺がやらなくても誰かやる」は住民根性、といった使い方をします。

教育基本法に示されているように、日本社会における教育の目的は「主権者たる国民を育て、健全な市民社会を作り上げること」にあります。それは子どもたちを対象とした学校教育だけでなく、全世代を対象とした社会教育の目的です。この社会教育活動の中核を担うのが公民館です。

ですから、当然のことですが、公民館の使命は「健全な市民社会を作り上げること」で、だから「公民」を作る、「公民」が集う館なのです。

公民館が担う社会教育には、定型な形があるわけではあり



### 地域づくりと公民館

ません。いついつまでにこれを指導するとか、これを教えるという教科書があるわけでもないし、先生と生徒がいるわけでもありません。そのため、社会教育はその具体的な教育内容を公民館職員だけではなく、住民自らが作り出さなくては成立しません。つまり、「俺がやらなくても誰かやる」ではなく、「俺がやらなくて誰かやる」の精神は公民館の存立の根底にあるのです。

この「健全な市民社会」という点で、実は、日本は世界に誇るべき社会です。日本人は「自己評価が低い国民性」を持っていますから、「日本はそんなに良い社会ではない」と思いがちですが、

2011年の東日本大震災の時もそうでしたし、先日報道されたように、列車に一人の女性がはさまれたときに、皆が力を合わせて救った事



特定非営利活動法人  
教育支援協会  
代表理事 吉田 博彦

件の時も、世界は日本社会を賞賛するので

最近では「健全な市民社会」という言葉ではなく、同じ意味で「地域おこし」や「絆作り」という言葉がよく使われます。こうした言葉が最近になって頻繁に使われるのは、日本人が世界から賞賛される「健全な市民社会」の喪失を実感しているためで、政府や行政に文句を言いながら、しかし依存している住民、社会とは関係を持たず自分のことだけに関心を持つ住民が増えていることが主要な要因です。

この問題を解決するために公民館や社会教育活動があるわけで、公民館活動を本職とする公民館職員の責務に関する意識や運営能力がその成果の鍵となります。少ないとはいえ他国に比べれば、「この社会を何とかしないとイケない」と思っている住民も多くいるのですが、住民には本業である仕事があり、家庭がありますから、公民館職員の質が良くなければ社会教育を生み出すチャンスが逃してしまうことになります。そして、そのチャンスをずっと逃してきたために、我々の社会は健全性を損ねてきた



のだと私は思っています。

しかし、いつまでも「死んだ子どもの年を数える」ことをやっていても意味がありません。そのため、そのことに気がついた地域の市民が自分たちで社会教育、つまり公民館活動を作り出していかなければならないのです。

### 「ふくしまキッズ」と公民館

2011年の夏、福島原発事故の影響で大変な状況に置かれている子どもたちを守るうということ、私たちが企画した「ふく



しまキッズ夏季林間学校」の活動がスタートしました。これには募集開始と同時に定員を超える福島のご家庭からの応募がありました。こうした状況に対応し、すべての子どもを引き受けるには多くの地域の協力が必要でした。これに手を上げてくれたのが今治市の桜井公民館を中心とする愛媛県の公民館の方々でした。

あれから3年目、2013年のこの夏も「ふくしまキッズ」の活動は今治市を中心とした愛媛県の多くの町で活動が継続され、福島の子どもたちには一番人気の活動プログラムとなっています。

こうしたキャンプ活動・集団体験活動は自分たちの団体の固定のスタッフがすべて引き受けてやるのが一番やりやすいのですが、それでは閉鎖的な社会教育活動になってしまいます。もしも福島の子どもたちを引き受ける活動が限られた人たちだけの活動となれば、その問題意識は社会に広がっていきません。そのため、「ふくしまキッズ」では支援金をできるだけ多くの市民から集めることとし、出来るだけ多くのボランティア、できるだけ多くの行政関係者にかかわってもらうようにしています。この「できるだけ多くの」というところに社会教育の本質があるはずなのです。

今、世界の国々は市民社会を基本とした民主主義国家へと大きく変貌を遂げつつあります。それはネットの世界を通して中東諸国へも広がり、かつては「新たな公共の実現」参加型社会の実現などというのはとんでもなく「絵に描いたもち」という感じ



で受け取られていましたが、もはや崇高な理念ではなく、経済成長を前提とした従来の「右肩上がり成長社会」が維持できなくなった時代に、参加型社会にせざるを得なくなってきたという現実的な政策論なのです。

これを社会に定着させる政策手法が社会教育であり、その拠点が公民館なのです。地域で取り組み、社会状況の改善に貢献する地域の人づくりや人間関係を作ることを、このことを具体的に示したのが愛媛県公民館の「ふくしまキッズ」活動なのだと思います。